

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第39週(9月22日～9月28日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	37週	38週	39週	39週	39週
インフルエンザ	0.33	0.33	0.33	1.51	1.04
新型コロナウイルス感染症	25.67	17.67	8.67	8.76	5.87
RSウイルス感染症	5.00	4.50	1.00	2.19	1.51
咽頭結膜熱	●1.50	0.50	●3.50	0.29	0.27
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0	1.50	1.00	1.39	1.49
感染性胃腸炎	5.00	3.50	4.00	3.13	3.67
水痘	0.50	●3.00	0	0.29	0.22
手足口病	1.00	1.00	0.50	0.16	0.40
伝染性紅斑	●3.00	●3.00	●3.50	●3.52	1.22
突発性発疹	0	1.00	0	0.39	0.28
ヘルパンギーナ	0	0	0	0.19	0.59
流行性耳下腺炎	0	0	0	0.10	0.05
急性出血性結膜炎				0	0.01
流行性角結膜炎				1.75	1.06
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.01
無菌性髄膜炎	0	0	0	0.17	0.05
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	1.17	1.28
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0

急性呼吸器感染症(ARI)	64.33	48.67	42.67	65.16	54.70
---------------	-------	-------	-------	-------	-------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 伝染性紅斑が流行しています。

長崎県の第39週の報告数は109人で定点当たり報告数は3.52となり、8週続けて警報レベルの報告数となりました。地区別では、10保健所中5保健所で警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん(紅斑)、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児の異常や流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。感染経路は、飛沫感染や接触感染ですので、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

【トピックス】 マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう。

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

長崎県では、2025年第39週までにSFTS10件、日本紅斑熱17件の報告があがっています。

過去5年の県内の発生状況を見ると、10月に日本紅斑熱、11月につつが虫の報告が最も多くなっています。ダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

【トピックス】 インフルエンザを予防しましょう。

長崎県の第39週の患者報告数は77人で、定点当たり報告数は「1.51」でした。県全体では、第37週に流行の目安である「1.0」を超え、流行期入りしています。

今後の動向に注意しながら、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。